

事例 39 大規模災害発生を想定した職員の防災訓練の本格化 (北海道森林管理局)



- ・北海道札幌市 北海道森林管理局
- ・災害対策本部の運営訓練(令和6(2024)年9月)

近年、各地で地震や豪雨災害が頻発・激甚化しており、災害時の地域の安心・安全確保に向け、関係機関等と連携した被災状況の情報収集を始めとした初動対応がより一層重要となっています。

北海道森林管理局では、災害が発生した場合に迅速かつ適切に対応できるよう、同局及び管内の各森林管理署において、大規模災害発生を想定した職員の防災訓練を実施しています。

令和6年度は、「十勝沖を震源とするマグニチュード9.3の地震が発生し、太平洋沿岸を中心に津波浸水被害と建物倒壊が発生した」という設定の下、参加者に被害シナリオを事前に提示しないブラインド型訓練を実施しました。

当日、同局の災害対策本部に緊急参集した職員は、被害状況が刻々と明らかになる中、各署や関係機関と連絡を取り合いながら、全職員の安否確認や民有林も含めたヘリ等による被害の全貌把握、北海道の災害対策本部に派遣した職員を通じた情報共有、帰宅困難者の受入れ、地域から寄せられる要望への対応等を模擬的に実施し、災害発生時の対応手順や災害対策本部の指揮機能等を確認しました。

同局では、今後も実践的な防災訓練と振り返りを継続的に行い、災害発生時の職員の対応力を向上させ、地域の安全・安心の確保に努めていきます。